

北海道 網走・能取岬の氷曝

高橋

【日時】 2013年2月1日～3日

【メンバー】L田邊、高橋、佐藤（会外）

毎年の恒例になった北海道氷曝ツアーは、田邊Lが「流氷の上を歩いて、断崖に懸かる氷を登る」という、何とも素敵な企画を提案。氷仲間の佐藤さんも誘っての道行きとなった。31日の午後便で羽田を出発し、女満別空港更にレンタカーで40分程の網走駅前の「ホテル」へ。宅急便で送って置いたガチャ類を整理し、明日の準備をして就寝・・・。

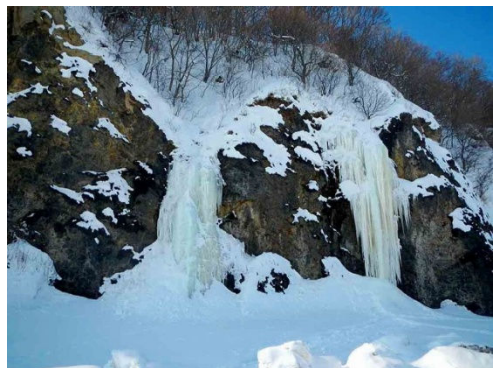
2月1日 車で25分で「能取岬」付近へ着くが、海岸に下りる踏跡が道路際に掻き揚げられた雪山で、ナカナカ見つからない。地形図とトポとを睨み見当をつけて雪山を越えると明確な踏跡が現れる。氷曝見物のトレースで、程なく流氷が海一面を覆い尽くす海岸に着いた。

今年は流氷の接岸が例年より早く、この景色を見られただけでも超ラッキーで、得をした気分。

**F 4 (クジラの滝) 登攀 40m・4級+**

下部は雪に埋もれラッセル。この日は氷質も柔らかか目で登り易かった。高度感は抜群で、落ち口から眺める流氷の海は幻想的でした。幸せを感じるひと時を甘受する。

F 1 (おこじょの滝) から F 9 (ハヤブサの滝) まで、1.5キロの間に点在する能取岬は氷曝見学のメッカらしいが、クライマーの姿を見たのは2日間で2パーティーだけだった。



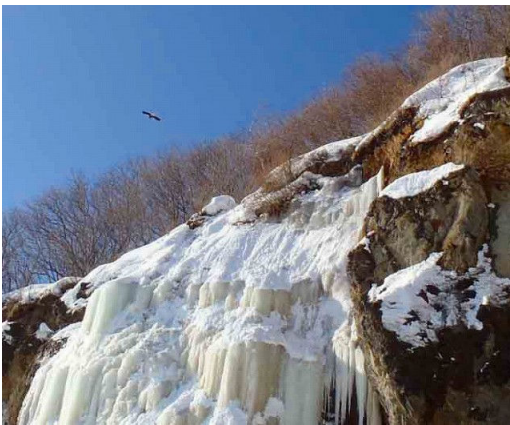


F 4から先にも無数の沁出しの氷が懸かるが名称が定かでない。又終了点の支点となる立木までどれも結構雪の急傾斜を登らねばならない感じだ。

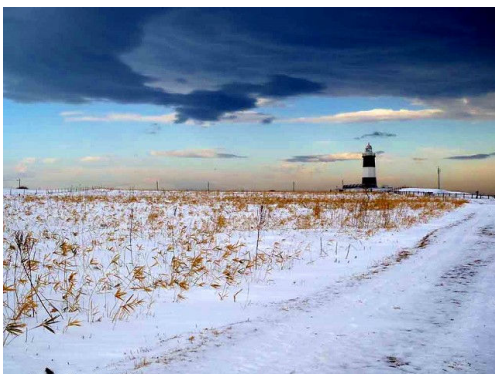


F 7 (オジロの滝)・40m登攀

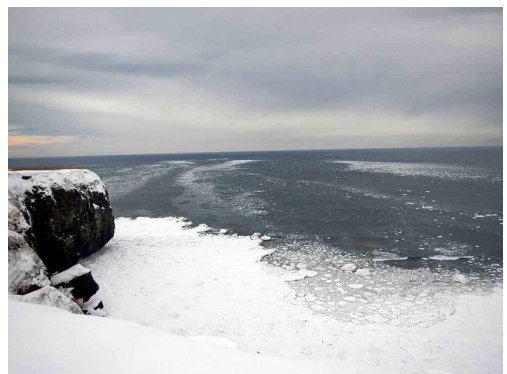
幅が広く雄大な氷だ。「オジロワシ、オオワシ」が上昇気流を求めて滝の上空を舞う。ここは、流氷の少ない満潮時には足元を海水が洗うそうだ。



2月2日 今日、昨日「クジラの滝」でお会いした地元のクライマーから、F 9 (ハヤブサの滝) がスッキリした氷柱で氷質もバッチリだとの情報のもと、「能取岬灯台」付近から崖を下る踏跡を探し当てられず、仕方なく昨日辿った海岸沿いに行く事にしたが、北の果てを感じさせる朝焼けのノトロ岬の広漠たる情景に目を奪われる事しばし。昨夕からの南風に流氷が沖に流され、一面見渡す限りの白い海原だった昨日とは打って変わった流氷の姿にあっけをとられる思いだった。



「能取灯台」付近の朝の景色

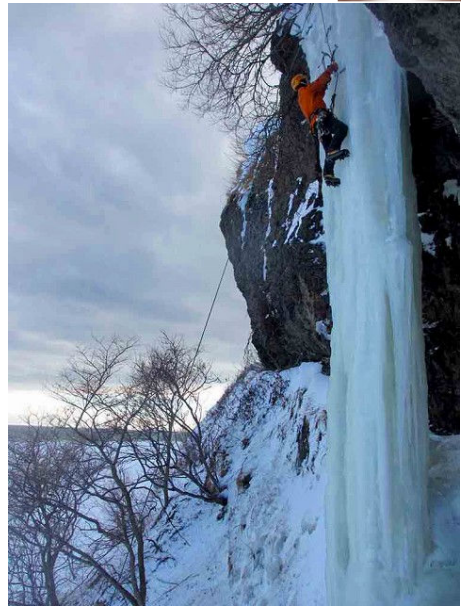


沖の去った流氷の眺め



F 7 (オジロの滝) 先の氷瀑群

「クジラの滝」から再び着岸した流氷を踏んで一時間位でF 9「ハヤブサの滝」に着いた。スッキリ伸びた氷柱で、氷は昨日からの暖気に加減か柔らかか目に見えるが、登ってみると矢張り力が要った。



F9 (ハヤブサの滝) 登攀 氷柱 20m



夕闇が迫る雪原に歩をいそがせて帰路に着く。

「この広い海原に我々だけが立っている」と思うと何か妙・・・。

2月3日 「トウフツ湖」で寒さにうづくまる白鳥を見たり、「網走湖の氷曝祭り」を覗いたり、「北方博物館」でエスキモーを中心にした珍しい民族衣装を見学したりして時間を過ごし、再び空の人となり楽しい旅を終えた